



【協働体通信 HP】

第28号

えひめ 地域づくり協働体通信

令和4年（2022年）1月発行

今号では、八幡浜市保内町川之石地区で、地区交流拠点施設「みなせ」施設長を務められている菊池敏和さんと「NPO法人からみ」理事長を務められている安藤加代子さん取材しました。

令和3年2月1日にオープンした「NPO法人からみ」と、同年4月1日にオープンした「川之石地区交流拠点施設みなせ」について、設立までの経緯や現状、活動への思いや今後の展望をお聞きしました。

公民館の休日にあたる、土曜日・日曜日・祝祭日の運営を担う形態は、全国でも珍しいそうです。

川之石地区が少子・高齢化社会を生き抜くためのシステムを生活の中で実践することで、地区住民が地域の良さを認識し、誇りや楽しみを持って、お互いが助け合いの精神で交流できる場所となるような地域づくりを目指されているとのことでした。

本紙が皆さまの地域で活動される上で、ご参考になれば幸いです。

八幡浜市保内町川之石地区

キーワード：「NPO法人からみ」について、地区交流拠点施設「みなせ」について
地区の方への思いについて、今後の取組み・課題について

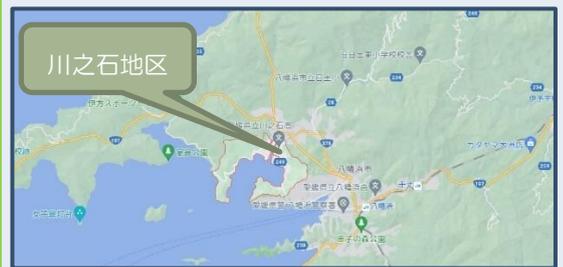
★八幡浜市保内町川之石地区について

旧保内町は、佐田岬半島の付け根に位置し、宇和海に面した町です。約4,300世帯、9,200人が暮らしています。

川之石地区は、川之石湾に面し、古くから海運業、鉱山、金融、養蚕、紡績などの多様な産業で栄えた地区であり、愛媛初の銀行が設立され、四国で初めて電灯がともった地です。

歴史ある建造物や国登録有形文化財の建物を持つ現役の養蚕会社などが立ち並びます。（旧白石和太郎洋館、愛媛養蚕、旧東洋紡績赤レンガ倉庫、美名瀬橋、内之浦公会堂など）

生活に必要な施設は近隣に充実しており、加えて市中心部へも車で約10分の立地。利便性の高い生活が送れる地区です。



八幡浜市保内町川之石地区



川之石地区交流拠点施設みなせ

①「NPO法人からみ」について

安藤理事長が2003年に「保内ボランティアガイドの会」を設立され、観光客の案内をされていました。その会など複数の住民団体から有志の方が集まり、令和3年2月1日にNPO法人からみが誕生しました。名前の由来は、川之石の一大産業だった「銅」の精錬後の分離物から作られていた「からみレンガ」から、地区の方々が自然に集い、楽しくからみあえる（交流できる）ようにという思いを込めて命名されたそうです。

公民館が休日にあたる、土曜日・日曜日・祝祭日等の施設管理や清掃業務等を担っています。八幡浜市が実施する業務の一部をNPO法人からみが受託する形で運営されています。

交流拠点施設「みなせ」との連携を図りながら活動されており、新たな地域コミュニティを作るため、これから地区が必要とする様々な課題に対処できるような活動などを地区の皆さんと一緒に考え、計画し、実行しようとされています。

②地区交流拠点施設「みなせ」について

NPO法人からみが誕生して、ちょうど2か月後の令和3年4月1日に川之石交流拠点施設「みなせ」が開館しました。

施設の立地場所も地区のちょうど真ん中に位置しているため、地区のどの場所に住んでおられる方も訪れやすい施設であると感じました。

様々なイベントも開催され、鯉のぼりの設置、ミニコンサートの開催、七夕飾り、ミニ縁日、ドローン体験教室などです。

昨年12月12日(日)、多目的ホールにて「ふれあい三世代交流会～しめ縄づくり」が開催され約150名の皆さんに参加いただきました。小学校5・6年生は親子での参加、お孫さんとの参加の方など、賑やかに行われました。作り上げることも大切ですが、子どもや大人の方や高齢者の方が一緒になって協働作業をする、その交流こそが「からみあう」ことであり、地域に賑わいを取り戻す一つのきっかけになるのではないでしょうか。

施設内には、飲食可能な「談話ルーム」やカラオケ機器もある「集会ホール」もあり、気軽に利用して楽しく交流してもらいたいと語られていました。

③地区の方への思いについて

川之石地区には、8つの自治会があり、それぞれが取り組んできた行事などの継続が高齢化により厳しくなっています。川之石地区という大きなくくりで、「みなせ」を拠点に自治会同士の交流や協力して活動する形を願っているとも語られていました。そのことで視野も広がり、お互いの認識を共有することで、これからの地区活性化にとって必要なアイデアも生まれるのではないのでしょうか。

イベント中心の事業ばかりになると、その日だけ大勢集まって賑やかですが、一過性に終わってしまう可能性が高い。イベントは随所で実施し、日常集まってきた方たちが、会話を交わす中で「こんなことをしたい」「あんなことをしたい」という意見を聞き入れ、一緒に相談しながら進めていく形を取れ入れたい、地区の方にも気軽に私たちに声を掛けてほしいと語られていました。

目指されているのは、交流拠点施設「みなせ」を中心に、地区の皆さんが交流を深めることで、地域の良さを再認識し、楽しみを創造し、お互いが助け合いの精神で交流できるような場所となる地域づくりであり、地区の方が自らの手で地域を盛り上げていくのをお手伝いしていきたいと語られていました。

④今後の取組み、課題について

設立間もない組織で、コロナ禍の状況下、先が見えにくい状況ですが、地域の方との交流を大切に活動したいと語られていました。



★取材後記

お聞きする中で、コロナ禍での、地区交流拠点施設「みなせ」及び「NPO法人からみ」の運営上、ご苦労されていることを感じました。

また、地域活性化とは、「形にとらわれない形」様々な年齢の方のお考えの中からアイデアが生まれると語られていました。

今回、本紙でご紹介しました地区交流拠点施設「みなせ」及び「NPO法人からみ」の地域活性化に向けたこれらの取組みが、愛媛県内各地域で活動されている皆さまのご参考になれば幸いです。

この情報誌の関係サイト/「えひめ地域づくり協働体」 Facebook

地域の活動情報の連絡先/この情報紙に関するお問合せ先

愛媛県企画振興部地域政策課

TEL: 089-912-2235 E-mail: chiikiseisak@pref.chime.lg.jp

(公財) えひめ地域政策研究センター

TEL: 089-926-2200 E-mail: info@ecpr.or.jp